

韓国のノリ養殖漁場の管理体制の改善方案

金 炳 浩

釜慶大学校 海洋産業経営学部

E-mail : kimbh@pknu.ac.kr

韓国においてノリ養殖業は水産業のなかでも伝統的に重要な業種である。年間1億束（100億枚）以上の生産があり、生産額は4,000–5,000億wonで、全体漁獲高の10%程度を占めており、それに携わる漁家数は全体漁家数の14%程度である。なお、最近の食生活の簡便化趨勢とともに一定の需要を確保し続けている。

一方、1980年代に入ってから、ノリ加工技術の発達などにより、加工部門が養殖業から分離され、1990年代以降は消費形態の変化とともにノリ加工は再び1次加工と2次加工に分化されるなど、ノリ産業の再編が進んだ。また、ノリ養殖業の内部でも浮流式養殖法などの技術の発達と漁家労働力の量的縮小及び高齢化など、経営をめぐる与件の変化が急激に行われ、経営方式や経営規模において多くの変化が現れるようになった。

従って、今回の発表では現行の漁場管理制度の持つ問題点に関して養殖経営の与件変化と関連して説明しようとし、特に現行の制度に従って、漁村契や部落、或は個人が実質的な漁場管理主体となる場合の問題点を指摘しようとする。そして、代案として大単位管理体制を提示し、その導入の可能性についても触れたいと思う。

発表の内容：

1. 韓国のノリ養殖業の概要
2. ノリ養殖業の経営与件の変化
3. ノリ養殖漁場の利用及び管理の実態と問題点
4. 制度の問題と改善方案